

はじめに

令和5年、沖縄県小児保健協会は創立50周年を迎えました。同時に沖縄方式と称される本県の多職種専門家チームによる集団での乳幼児健康診査事業も50年の節目を迎えました。この長い歴史の中で、沖縄方式はその有効性と成果により注目され、全国でもモデルとして応用されております。復帰後の子育て制度も整わない厳しい環境下においても、本県のこども達の健康を守り続けてこられた市町村関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。

現在、国民全体でこどもを守っていく「こどもまんなか」社会の実現が求められており、「こども基本法」が施行され、「こども家庭庁」が発足しました。その中の乳幼児健康診査では、1か月児健診と5歳児健診に対して公的補助が実施されました。健診は全てのこどもの健康及び成育環境のスクリーニングとしてとても重要な役目を果たしており、健診の機会が増えることは必然のことと思われまます。新しく加わる二つの健診を適正に開始していくには多くの課題がありますが、一つ一つ解決していく必要があります。これまでの当協会の経験やノウハウを生かし、全力で取り組んでまいります。

また、国の方針としても母子保健のデジタルトランスフォーメーションが必然となってきました。その一環として、当協会では本報告書以外にも健診データを当協会ホームページの市町村マイページシステムや会員専用ページより利用できるよう新たにシステムを構築しています。

今後も当協会では、多様性を尊重し「誰一人取り残さない」未来に続く持続可能な乳幼児健康診査体制を構築しつつ、50周年記念のテーマである「こどもが輝く未来」に向けて、市町村の母子保健事業の発展に微力ながら尽力いたす所存です。

今後とも皆様のご指導ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和6年7月

公益社団法人沖縄県小児保健協会長 宮城雅也